

**地域・公共マネジメントプログラムが開講する「FLP演習A（2年次）」の
担当予定者とその講義概要**

1. （担当：牛嶋 仁・法学部） 【分野：都市経営】多摩キャンパス開講

テーマ：国境を越える環境法と国際協力・地域の諸問題

演習概要：

本演習は、環境、国際協力各プログラムと合併して行います（ゼミに各プログラム所属学生がいるしくみ）。環境問題や国境を越える環境法を結節点として、国際協力、地域公共の視点も併せ持つ多様性のあるゼミにしたいと考えています。

近年、多国間条約による環境規制の増加やトランスナショナル環境規制（グローバル化により特定国の環境規制が国境を越えて法的または事実上の影響を及ぼすこと）により、私たちの市民生活や企業活動が影響を受けるようになりました。自由貿易協定や経済連携協定によっても各国・地域の環境保全に影響が生じる可能性があります。それら現象について国際協力・地域の視点から実地調査を含む検討を行います。

対象テーマは、上記に関連するものについて、担当教員と相談した上で、受講者が決定します。授業は、受講者の報告と討論により行います。

方法として、受講者による文献調査報告と実態調査の二つの柱があります（いずれも報告集作成）。

報告について、演習Aでは、基礎力をつけるため、広く環境問題を対象とします。演習Bでは、受講者が決定した全体テーマの検討を行います。全体テーマの例として、政府開発援助における環境アセスメント、電気製品に含まれる有害物質規制、生物多様性条約名古屋議定書によるABS（遺伝資源へのアクセスと利益配分）、自由貿易協定、経済連携協定が地域の環境に与える影響などがあげられます。演習Cでは、受講生ごと（またはグループ）の個別テーマを設定します。

実態調査について、演習Aでは、海外調査（2014年9月〔タイ〕予定。演習B、法学部環境法ゼミと合同。タマサート大学との交流を含む）を行うべく準備を進めています。演習B、Cについても、海外（Asia-Pacific 諸国）での大学交流・調査を考えていますが、詳細は、受講生と相談して決定します。

2. （担当：山崎 朗・経済学部） 【分野：地域経済開発】多摩キャンパス開講

テーマ：「新たな公」による地域政策

演習概要：

企業の海外進出、工場閉鎖の増大によって、工場誘致による地域振興政策は効果を失ってきている。グローバル化・人口減少時代における地域振興政策を考えるにあたっては、政策の主体、政策手段自体を根本的に見直す必要がある。これまでのように、行政だけを地域振興政策の政策主体と考えるのではなく、大企業のCSRやNPO、地域企業といった「新たな公」による新しい地域政策を積極的に展開する段階に来ている。本演習では、大企業のCSRによる森林保全や地域企業による地域資源の活用（バイオマス・太陽光・水力）による地域の振興策などの具体例を取り上げながら、それらの意義と限界について検討・考察する。

3. (担当：斯波 照雄・商学部) 【分野：コミュニティ開発】多摩キャンパス開講

テーマ:比較都市史入門

演習概要:

現代に至る社会的、経済的、政治的環境の変化や国際的商業活動の展開を背景として個性的な発展をしてきた都市について、これまでの過程を検討し、現状を分析します。本ゼミでは現代に視点を置いて、西洋と日本都市を比較検討しつつ、わが国におけるまちづくりの在り方を考えていきたいと思えます。具体的には、E.H.カー『歴史とは何か』を輪読し、歴史的なものの見方について学ぶとともに、レジュメの作り方、発表の仕方、レポートの書き方について学びます。次に、個別の西洋都市を選び、関連文献等を参考にしながら西洋都市の日本の都市との違いについて学びます。これらと並行して長野県飯田市におけるサマースクールに参加し、テーマに対応したヒヤリングを行い、提言をまとめます。また、国内の一都市を選んで資料調査後、2月に現地調査合宿を行い、演習Bで冊子を作成します。

4. (担当：御船 洋・商学部) 【分野：都市経営】多摩キャンパス開講

テーマ :地域経営と地方財政

演習概要 :

21世紀に入り、地方分権・地域主権の促進に向けた動きが活発化しました。しかし、「地方でできることは地方で」のスローガンの下で実施された、いわゆる「三位一体の改革」(2004~2006年)は、中途半端に終わり、多くの地方自治体が、仕事は増えたが、財源は増えないという苦しい事態に陥りました。一方で、バブル崩壊後の「失われた20年」と呼ばれる景気低迷やリーマンショックによる世界同時不況の影響等により、地域経済は疲弊しています。加えて、総人口減少、人口の少子高齢化は地方財政にも地域経済にも大きな問題を投げかけています。どうすれば、地域が再活性化し、住民が一生安心して暮らせる町を作ることができるのか。本演習Aでは、以上のような問題意識の下、地域経営という視点から地方財政を学び、自治体と住民や企業との役割分担を考えていきます。

5. (担当：根本 忠宣・商学部) 【分野：地域経済開発】多摩キャンパス開講

テーマ :地域のライフサイクルとファイナンス

演習概要 :

少子高齢化のなかで地域も老化し衰退局面に入るのは避けられない。住民の高齢化だけではなく社会インフラや企業、商店街も老化するから、現状維持のままであれば地域経済の活力はますます減退していくものと思われる。もちろん世代交代が円滑に進み、新しい芽を摘むことなく育てることができれば地域には新しい息吹が降り注ぐであろう。しかし、本格的な高齢社会という時期を回避できない以上、世代交代が円滑に進むかは不透明である。そこには好き嫌いという人間関係の問題だけではなく、新しい芽をしっかりと育てられるかという物理的制約の問題も含まれている。とりわけ必要なお金を集める際に公的な財源に頼ることはますます難しくなるから、民間資金をうまく活用しないと芽は成長する前に枯れてしまう。

演習では、地域のライフサイクルという視点から、衰退と再生の循環メカニズムを理解し、それぞれの局面でどのような取り組みが必要となり、それに伴う問題や課題が何かを考察する。そのうえで金融的側面に焦点を当てて、具体的な取り組みのなかでどのような資金ニーズが発生し、その資金をどう調達するのか様々な可能性について検討する。

具体的に学習し、検討する内容は以下の通りである。

地域とは何か／地域のライフサイクル(衰退と再生の定義)／地域の衰退と再生の循環メカニズム／事例研究にみる地域再生の成功と失敗／再生プロセスで発生する資金需要／地域再生に係る資金調達手法 ー融資と投資ファンドの違い／資金調達の担い手 ー地域金融機関(地方銀行、信用金庫) ー民間ファンド会社 ー政府系金融機関 ーNPO金融、地域通貨、マイクロクレジット／地域再生における地域金融機関の役割／地域再生における公的金融の必要性和パフォーマンス評価

6. (担当：新原 道信・文学部) 【分野：コミュニティ開発】多摩キャンパス開講

テーマ：フィールドワークの理解と実践

演習概要：

3. 11以降の持続可能な地域社会／コミュニティ形成をテーマとして、フィールドワークの「エピステモロジー／メソドロジー」を身につけることで他者認識と洞察力を獲得し、その洞察力によって新たな事実を発見し問題解決の方向を示唆する“社会のオペレーター”へと成長することを目標としています。演習Aでは、まずフィールドワークの「技法・作法と倫理」と「理論と方法」を学び、サマースクール／フィールドワークに臨みます。後期以降は、サマースクール／フィールドワークのとりまとめ（質的コーディング）と、新原ゼミ生共通のプロジェクト（立川や被災地でのプロジェクト）への参加準備をすすめます。

7. (担当：黒田 絵美子・総合政策学部) 【分野：コミュニティ開発】多摩キャンパス開講

テーマ：地域文化振興の実践

演習概要：

多摩市文化複合施設、パルテノン多摩における地域文化振興企画の立案から実践に至るまでを多摩市職員とともに検討、運営する。その他、演劇、落語、能などを通じての地域文化振興の実態調査を行う。

8. (担当：小林 勉・総合政策学部) 【分野：コミュニティ開発】多摩キャンパス開講

テーマ：地域活性化とスポーツ

演習概要：

地域を活性化させるのに数多くの選択肢が存在する中で、スポーツはそうした問題にどのように関わろうとしているのか。震災後、日本でも被災地復興や地域活性化の文脈で、いわゆる「スポーツの力」に関心が向けられつつある中、そうした「スポーツの力」はいかに捉えられていくべきなのか。住民による新たな地域活性化の方途をスポーツの事例に探り、スポーツによって描き出される地域構想の実態を多角的に検証しながら、スポーツ実践の向こう側に描かれる地域デザインの理想と現実について考えていきます。具体的には、大学を核とするスポーツを通じた地域活性化イベントの運営(中大杯)や、新旧の住民が混在する地域の年中行事へのボランティアとしての参加、Jリーグ加盟を目指して奮闘するサッカークラブの地域貢献活動に関する実態調査等への活動を展開する予定です。

9. (担当：細野 助博・総合政策学部) 【分野：地域経済開発】多摩キャンパス開講

テーマ：まちづくりの成功事例の検証

演習概要：

すべてゼミ形式で、総合政策学部棟のコンピュータ演習室で行います。理由は、統計ソフトや地図ソフトを用いて、パソコンによる分析手法を学び、データを読み取る力を習得するためです。これは「鳥の目」を養うためです。種々のフィールドワークによってその「土地の風」を感じ、その「土地の声」を聞き、その「土地の味」を楽しむことで「虫の目」を養います。また、都市に関する基礎的な文献を輪読します。たとえば私の『スマートコミュニティ』、『中心市街地の成功方程式』、『コミュニティの政策デザイン』、『まちづくりのスマート革命』などから空間経済学を学生同士で学び合い、日本の現状、及び欧米の事例を研究します。さらに、夏季や春季の長期休暇を利用して実践的な調査合宿を行っています。昨年度は社会調査の実習として高尾山で来訪者の意識調査を行い、京王電鉄グループの人達の前で発表しました。

10. (担当：堤 和通・総合政策学部) 【分野：都市経営】多摩キャンパス開講

テーマ：地域社会における犯罪減少策と更生

演習概要：

犯罪が発生した場合にはその行為者に刑罰を科す、というのが刑事司法での扱い方で、それには、犯罪発生後の処理であることと、刑罰制度で国が処理する、という特徴がありますが、犯罪を未然に防ぐということと、犯罪行為者の社会復帰を図るうえでは、子どもが社会化をする場であり、犯罪が起きる場であり、犯罪行為者が更生を図る場である、地域のあり方に焦点を合わせなければなりません。犯罪予防、子どもの社会化、刑罰を含めた多様な更生の取り組み、がいずれも刑事法という法制度だけで済む課題ではないことはいまでもありません。ここ20年ほどで大きく進展を見せている欧米での取り組みや知見を参考にしながら、学際的な視点から、課題にかかわる現状を踏まえて、新たな制度設計と運用を考えます。